

発掘ニュース

第 3 2 号

平成 4 年 2 月 23 日

発行 財団法人 いわき市教育文化事業団
TEL 0246 (29) 0391

根岸遺跡第 2 年次範囲確認調査

——古代磐城郡衙推定地の調査——

平成 3 年度も国庫補助事業により、夏井地区の根岸遺跡の調査が現在行われています。目的は古代律令制時代の磐城郡の政治の中心地である郡衙(郡役所)の位置や広がり等を確認することにあります。

郡衙には、役人が事務をとる郡庁、租税(当時の税は稲で納めた)を収納する正倉と呼ばれる高床式の倉庫群、郡ごとに 3~4 の館、出張してきた国の役人を接待する宴会の食膳準備や食料の管理をする厨家などがありました。このほかにも門や垣の施設等もありました。細かく言えば郡庁にも、庁屋・副屋・向屋と呼ばれる数棟の建物があって、ひとつのグループとなっていました。



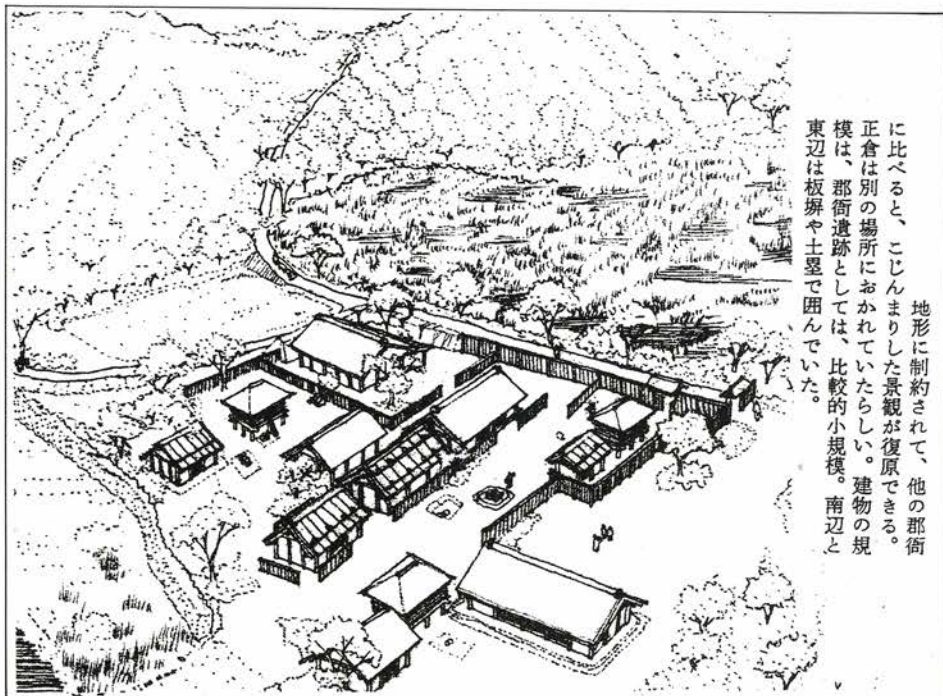
掘立柱建物跡(柱の跡に立つ人)

調査は最初に「長者平^{ちやうじゃたいら}」と地元の人か呼ぶ、高台の平らな部分から行われました。ここからは縄文時代中頃の住居^{ろあと}の炉跡が点々として検出されました。脇の斜面の「松林貝塚」と同時期のものです。しかし、磐城郡衙に関連する奈良・平安時代の時期の明確な遺構は検出されませんでした。

調査の目的はあくまで磐城郡衙の把握にあるので、調査指導委員の先生方の指導を得て、第2番目の地点として八坂神社近くを調査しました。その結果、掘立柱の建物跡や堀込み地業と呼ばれる基礎工事をした建物跡が検出されました。

これらの建物群は、いずれも倉庫と考えられています。(現地説明会資料参照)

8世紀末、磐城郡司(郡の長官)であった丈部善理^{はせつかへのよしまさ えぞ}は、蝦夷の反乱を押さえるため、官軍の一員としてく岩手県胆沢^{いさわ}まで出陣し、そこで戦死しました。善理はその功績により破格の8段階昇級となり、外従五位下(貴族扱い)となったのです。その善理が毎日出勤して歩いたかも知れない根岸の台地を、今調査しているのです。歴史を身近に感じないわけにはいきません。



地形に制約されて、他の郡衙に比べると、こじんまりとした景観が復原できる。正倉は別の場所におかれていたらしい。建物の規模は、郡衙遺跡としては、比較的小規模。南辺と東辺は板塀や土塁で囲んでいた。

郡衙の復元(志太郡衙)

(岩波・「古代日本を発掘する」)

平成3年度調査遺跡のあらまし

根岸遺跡の他にも当事業団では、委託を受けて幾つかの遺跡の発掘調査を実施しています。その内容について簡単に紹介しましょう。

★東北横断自動車道関連

- ・高戸A遺跡（三和町上永井）前年度残っていた1,000m²について調査。

平安時代の流水路1条、江戸末期の墓跡11基を検出し、遺物として縄文土器・土師器・須恵器・陶磁器・石器・煙管・錢貨・人骨・獣骨等が出土しました。

- ・匠番柵館（三和町差塩）中世の山城である館跡で、道路部分を調査中。

最上部の平場周辺には低い土塁を巡らし、取り巻くように幾つかの曲輪があります。他に平安時代の竪穴住居跡1棟、中・近世の溝跡4条、縄文時代・近世の土坑数十基、近世の墓跡4基等を検出しています。遺物としては、縄文土器・土師器・陶器・鉄鏃・鉄刀・煙管・錢貨・石鏃等が出土しました。

- ・道添B遺跡（三和町差塩）殿田館の下端部にあたり、縄文土器・土師器・石器・獣骨等が出土しています。

- ・殿田館（三和町差塩）匠番柵館と同じ中世の館跡で、主郭（中心地点）の周りには人の高い土塁を巡らし、深い溝で掘り切りを設けています。

- ・差塩遺跡（三和町差塩）縄文時代の遺跡で、竪穴住居跡3棟・土坑・集石遺構・近世の墓跡が検出されました。遺物として縄文土器・土偶・石鏃があります。

- ・差塩D遺跡（三和町差塩）上記の差塩遺跡と同様な遺跡で、竪穴住居跡2棟・土坑2基等があり、縄文土器・土師器の他・石鏃・珧状耳飾り・敲石等の石器が出土しました。

★東京湾観光（K）関連

- ・須賀蛭A遺跡（泉町下川）大畑遺跡に隣接する遺跡で、土師器・須恵器を伴う竪穴住居跡群、旧石器時代の石器やその製作場所等が検出されています。

★平バイパス・常磐バイパス関連

・清水遺跡（内郷御厩町）数年次にわたり発掘調査中です。山の上にある遺跡で今年度の調査の結果、土師器・須恵器が主な遺物で、遺構としては竪穴住居跡土坑・柱穴・掘立柱建物跡等が検出されました。



平安時代の住居跡

須賀蛭 A 遺跡

ばんじょうち
・番匠地遺跡（内郷御厩町）清水遺跡に隣接し、いままでの調査で、「警城郡印」のい がた鑄型や弥生時代の水田跡等が検出された重要な遺跡です。ここも数年次にわたる調査が行われていますが、今年度も主として水田跡の調査を中心に、畦畔や水路・溝等を確認しています。



調査風景

小茶円遺跡

このような谷地の小平坦地に早くから水田耕作が行われたのは、水の確保が容易であったということでしょうか。

こちゃえん
・小茶円遺跡（平荒田目）この遺跡も重要な遺跡で、平安時代を中心にし遺物や遺構が数多く出土しています。竪穴住居跡・掘立柱建物の他多くの溝・井戸があります。遺物のりょくゆう緑釉陶器片は一般の集落からの出土例は殆どなく、官衙との関係がありそうです。



井戸枠と出土した曲物

小茶円遺跡